

# 今、何の病気が流行しているか！



KAWASAKI CITY

## 【感染症発生動向調査事業から】

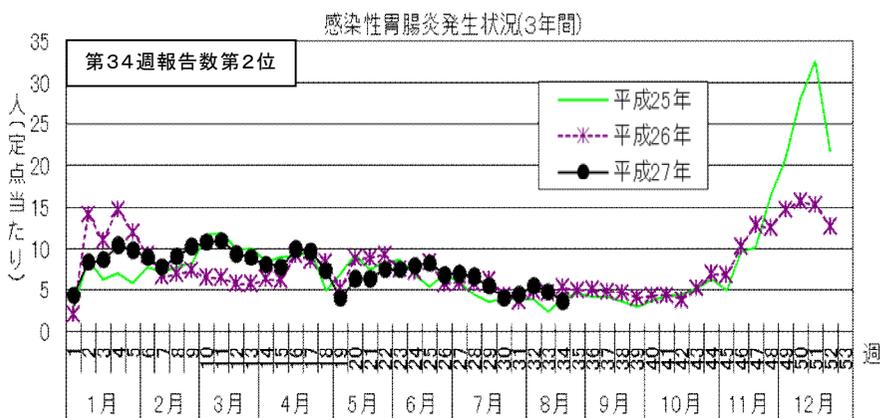
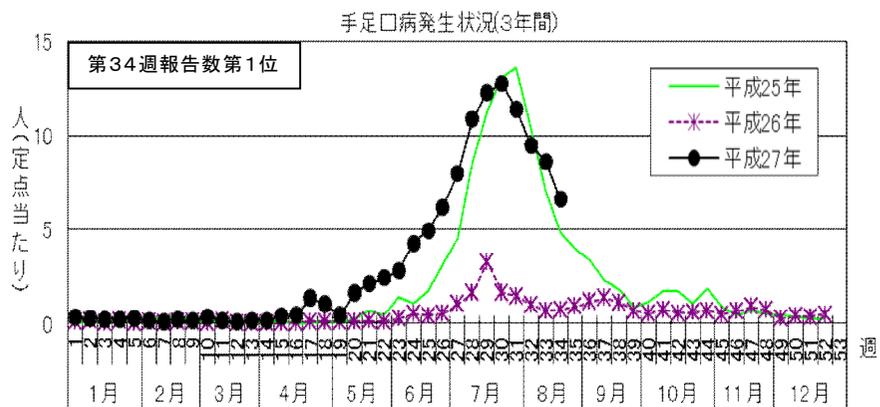
### 平成27年8月17日（月）～平成27年8月23日（日）〔第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は6.58人と前週（8.64人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.55人と前週（4.77人）から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.97人と前週（3.50人）から減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。



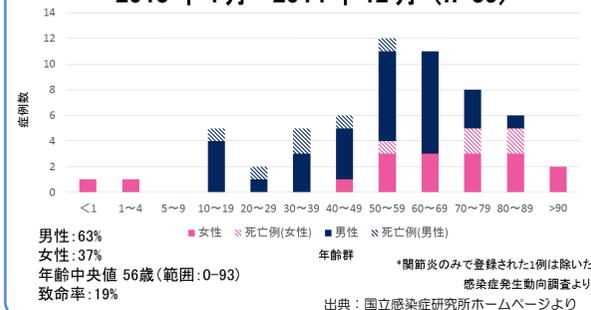
## 侵襲性髄膜炎菌感染症をご存知ですか！？

先日、山口県で開催されたイベントに、海外から参加した複数の参加者が、帰国後に侵襲性髄膜炎菌感染症を発症する事例がありました。本事例に関連する国内での発生はありませんが、わが国では年間20名弱程度、市内では数年に1名程度の発生があり、死亡率の高い（患者の5～10%）疾患です。

### 侵襲性髄膜炎菌感染症とは？

- ▶ **感染経路**：患者の咳やくしゃみによるしぶきを吸い込むことによって感染（飛沫感染）します。
- ▶ **潜伏期間**：通常3～4日（2～10日）
- ▶ **症状**：初期症状は、発熱や頭痛、嘔吐（おうと）など風邪と似ていますが、敗血症や髄膜炎などを起こし、発疹やけいれん、意識障害などが出現することもあります。他の細菌による感染症と比べて、症状が急激に進行するため、注意が必要です。
- ▶ **予防方法**：手洗いやマスクなどの他に、患者と接触したことが分かった際、発症前に予防的に抗菌薬を内服する方法もあります。

### 侵襲性髄膜炎菌感染症患者\*の性別と年齢の分布 2013年4月～2014年12月（n=59）



### <こんな方は特に注意>

- 患者の**家族**もしくは**濃厚接触者**
- **脾臓摘出後**や**無脾症**の患者
- 流行地域や流行国への**旅行者**
- **寮**に入る1年目の**学生**
- **1歳未満**の乳児と**16～23歳**の若者

